

意見書

近藤齊伸

私は高時川右岸の高月町井口の住民として75年、豊かな湖北の田園地帯に生活してまいりました。

地理的生活地点としては高時川水利の恩恵は非常に大きく感謝していますが、同時に埼玉県における高時川についての水対策には大きな危機と不安を抱いております。

8月28日付けで提出された河川整備計画策定の基本的な考え方の中に指摘があるように川を通して水、生物、土のつながりの希薄がある一方情報共有欠如もありとあり、たしかに理解できる部分があるが、地域の水対策にかかわって私も随分長きにわたりますが、歴史的な温故知新の精神がこの際には必要と思われる。

戦国時代から続いた高時川水利権をめぐる「井落し、横行」からみても水稻農業の水をめぐる生死の葛藤の中で川のつながり、人と人とのつながり、集落と集落のつながりが強固であつたし、上流は下流を考え、下流は上流を考えるという我田引水的な行爲はながかつたのではないが、一定のルール作りの中で妥協点を見いだしていたことは沿革横行志を見ても読みとれる。

今もって井口の「井ノ神社」では流域関係者により「井祭」が行われ先人の顕彰にあたっている。

つまり先人の智慧に学び100年先又その後における水問題として高時川はどうあるべきかの視点をきっちり持つべきだろう。この地に産んでから子どもの時に比べ、川の老成、水の変化は格段に進展した。土地改良国営事業農業用水路の完備は「水利は農の命脈なり」の至言のみならず、地域生活用水としても歴史に残る大事業であつたことは論をまたない。

農業用水、利水は慣行水利権として農政、農業政策を基盤にし、そのものであり高時川の濁水との関係は次元を異にするものである。

私は総合的に考えて丹生ダム建設は必要と考えています。
 下流の通り高時川は天井川であり、蛇行は著しく、大雨になれば濁水が大量の土砂を押し流す。

20年と30年にわたる河川整備の具体的な整備計画については詳細な調査検討され理論的にも理解するところではありますが、丹生ダムを排除し河川整備治水、利水、環境論のみで解決できるものではないであろう。河川改修費だけで膨大な戦線と年数を要する一方淀川水系下流の戦線負担が見込めない状況の中では不安が高まる。高時川治水、利水の河川整備計画と丹生ダムの二者択一論で一本化するのには問題ではないだろうか。

高時川の将来を考える上では丹生ダム建設方向と河川整備計画の重点化をほかり推進すべきと考えます。豪雨による堤防の破壊は蛇行状況や流水量力学上の予測データ等調査検討し流域地点ごとの改修補修工事と重点化すべきであろう。

濁水、土砂等の流出防止はダムによる流量調節以外にないであろう。地球温暖化が予想より大幅に進行し環境時計で9時31分地点と言われている。集中豪雨、大雨の長期化と反対現象としての干魃も予測されるであろう。

更に、高時川は天井川特有の復流水の恩恵がある。高月町民、又企業にも復流水上水道の恩恵はほかり欠けられないものがあり、現状のまま推移すれば、下水道整備による水需要が増加すれば地下水は大きなピンチにおちいる。

集落内を流れる河川については、三面コンクリートも多く、生活用水のみならず、魚やホタルの生態系にもあまり良好な環境とは言えない。

集落では環境保全のための意識改革とし行動できるよう
住民ひとりひとりの努力が大切でありそのしくみが重要だろう。

同時にこれは琵琶湖保全にもつながる。

生きている河川, 生きている琵琶湖であるためにはダム建設計画
としてBOD, COD等の水質問題を検証し組織的な地域
の協力も含めて今後の課題としていかなければならない。

私個人としては丹生ダムの規模は少くとも/堰も貯水量を減
と考えているし, 季節ごとの水調節を適正に行うべきであろう。

冬期間の積雪量にも問題があるが, 冬季における冷水と
高時川に流し琵琶湖流入することにより, 湖底水の水循環
機能と酸素量の増大をほかり, 生態系の活性化に効果と発揮
できるのではないかと思われる。

最後に高時川には常に水が流れ, 魚が住み, オタルの飛び
がうらむおいのある生活用水や復流水, 地下水の増加の
期待をするためにも, 高時川流域各町行政は利害を
越えて共働態勢と共通理解のもと取りこんでいたおこ
たしい, 県, 国交省共に地元流域の意志を充分尊重いた
丹生ダムが治水, 利水一体となった機能が発揮でき環境に
も配慮した前向きな誠意ある方向を打ち出したい
と願うものであります。

平成19年9月10日

近藤齊伸